

皆様の笑顔と幸せのために喜んで働きます!

日頃よりご支援いただきありがとうございます。市政報告をお送りいたします。



皆様こんにちは。名張市議会 会派「喜働(きどう)」です。
会派を発足して2年が経ちました。会派での活動も安定してきましたので、ここで市民の皆様へ議会や活動の内容を報告させていただきたいと思い、発刊いたしました。お読みいただければ幸いです。

先日、会派「喜働」で釜石市と鶴岡市へ『医療・介護・福祉・行政と患者家族との連携』をテーマに視察へ行ってきました。国が進める在宅医療に取り組むには、それぞれの連携強化がこれからの課題となります。6月議会では、その内容を含めながら質問をさせていただきました。これからも人それぞれが持つ情報を共有し、繋がり合うまちになるよう、活動していきます。



6月9日～6月27日開会
本会議・一般質問より

第376回定例会 議会基本条例の制定に向けて

9月定例会で制定するため、議会運営委員会は協議を重ねています。市議会は、数年前より議会改革検討委員会を立ち上げ、議会改革に取り組んできました。議会報告会・一問一答・反問権など、また政務活動費の使用基準の明確化、議員倫理要綱の制定など、議会基本条例がなくても『開かれた議会、議会改革にゴールなし』を合言葉に努力してきました。しかし、一部の議員から「マニュアルはルールではない、守る必要がない。」「条例でないため法的拘束力がない。」などの発言があり、条例を制定する必要が出てきました。平成29年8月現在、9月議会で制定できるよう進めています。



小中学校の規模・配置の適正化計画

市は、教育の機会均等や教育水準の確保、教育の質の向上を目的に、小中学校の規模・配置の適正化計画を打ち出しました。計画は、平成22年度から31年度までの10年間としています。

前期計画では、複式学級を編成していた滝之原小学校が比奈知小学校に、国津小学校がつつしが丘小学校に統合された。また、複式学級編成が目前だった錦生小学校が赤目小学校と合併し錦生赤目小学校となりました。

後期計画で、①小学校の統廃合(薦原小学校を美旗小学校に、箕曲小学校を百合が丘小学校に統合。)

②小中一貫教育として桔梗学園(仮称)を開校(桔梗が丘、桔梗が丘南、桔梗が丘東の市立3小学校と、市立桔梗が丘中学校を小中一貫校「桔梗学園」に統合。小学5、6年と中学生が県立桔梗丘高校の跡地に、小学1～4年が桔梗が丘東小の跡地に通う内容。)

③校区再編(南小・東小の児童は北中学校から桔梗学園に、桔梗中学校に通う蔵持小学校の児童を北中学校に変更する計画。)

しかし数度に渡る住民説明会では通学時間と距離、安全確保策、一貫教育に対する評価、地域社会の核である学校の廃止などを巡って反対の声が上がっていました。そこで市教委は、3小の早期統合は困難と判断し、当面は3小を残して桔梗が丘中のみを高校跡地に移す考えに修正されました。また、小規模校を理由に他校と統合するとしていた2小学校(薦原小学校、箕曲小学校)についても、時期の先送りや再検討の考えを示しました。今後、議会では、1学年2クラスがどうしても必要か、小中一貫教育をどう進めるか、市内での教育水準に差があってはいけないなど、議論を進めます。

学校での生きる力や知恵、郷土愛の育成について

現状

名張市子ども教育ビジョンの目指す子ども像は「夢をはぐくみ、心豊かで、いきいきと輝く『ばりっ子』と謳われています。その内容には、郷土の自然や伝統・文化を愛し、郷土を誇れる子どもということが挙げられています。

Q.名張市郷土資料館の入館者数、学校単位での見学状況、また、郷土資料館で実施した出前授業の参加人数を教えてください。

A.平成28年度の入館者数は2,835人。そのうち学校単位での見学状況は3組で137人。出前授業については、郷土史・歴史講座が36回で1,215人。体験教室・オオサンショウウオなどは12回で1,172人。そのうち小学校、特別支援学校では5校322人の児童が体験しました。

要望事項

農神戸市立博物館では学校との連携で出前博物館を行っています。実施状況は、年間130校位(市内には200校を超える学校がある。)の訪問をされているようです。実施に向けてはいろいろな環境を整える必要があるかと思いますが、是非、名張の宝を生かし、郷土愛の育成に努めていただきたい。



安心安全な食、持続する農業について

現状

市の農業の現状は、農家の高齢化と後継者不足の深刻化、耕作放棄地の増加など、本市の農業を取り巻く環境がますます厳しさを増しています。平成19年3月に策定された第2次名張市農業マスタープランには、目標や施策展開が書かれています。

Q. 農業の活性化について、いかがお考えですか。

A. 名張市の農業を守るために、耕作放棄地の解消と発生の防止に努め、地域全体で農地を守る事業を促進します。また、認定農業者の拡充や新規就農者の育成、集落営農組織への支援に取り組むと共に、女性、高齢者、休日農業者、定年就農者、障がい者アグリ雇用など、多彩な担い手育成にも取り組みます。更には、農業の6次産業化を推進させます。

要望事項

農業者を応援するクラウド・ファンディングのような手法で農業の活性化を図る方法も検討いただきたい。九州では、行政だけに限らず企業や個人から協賛金を出していただく「農業ドリームプラン・プレゼンテーション」を農政局や経済産業局が後援しています。



医療と介護と福祉の現場と家族の連携

現状

名張市民の健康寿命は全国トップレベルで、地域包括支援事業も先駆的と市は言われています。

Q. 国の進める在宅医療(終末期ケア含む)について、市は、今後どのように進めていく予定ですか？市民への啓発はどのように進めていく予定ですか？



A. 市立病院と医師会が運営する在宅医療救急システムの更なる連携を強化。また医師会に委託した在宅医療支援センターが中心となり包括的なネットワークを更に構築するために、他職種(医師・看護師・保健師・介護福祉士・まちの保健室の職員等)連携研修やワールドカフェ方式により講座を充実させ、連携強化に努めていく。

※ワールドカフェ方式とは…参加者が少人数で自由に発言しながら、他の人々の様々な意見にも耳を傾ける機会を増やす会議の方法。

要望事項

市民に向けて、より広い啓発活動や分かりやすい冊子などの作成を要望します。(例：松阪市健康ほけん部高齢者支援課作成の冊子「大切な人の最期を看取ることに」について)



会派「喜働(きどう)」 市政報告会 開催のお知らせ



報告会では通信の内容以外に、日頃の活動や今後、取り組みたいことをお伝えし、また皆様からの意見や要望もお聴きしたいと思います。是非、お越し下さい。

- ◆9月18日(月祝)15:00～ 場所：桔梗が丘南市民センター
- ◆9月24日(日) 19:00～ 場所：つつじが丘市民センター



皆様からのご意見、
ご要望をお待ちしています。

発行：会派「喜働(きどう)」
住所：名張市鴻之台1番町1番地
電話番号：090-3564-5380(川合滋 直通)
：090-7898-9453(足立よしえ 直通)
ホームページ：http://www.adachiyoshie.jp